



みくびだより

発行 御首神社社務所

御挨拶

拝啓 師走の候、皆様方におかれましては愈々ご健勝の事とお慶び申し上げます。

本年十月二十日、皇后陛下におかせられては、七十六歳のお誕生日をお迎へになられ、衷心よりお慶び申し上げる次第でございます。皇后陛下は、九月に「咳喘息の可能性あり」と診断をお受けになり、宮内記者会では、加齢や健康状態にお触れになりながらも、今後のご公務については、「陛下が今は特に変更の必要はないと思うと仰せですので、私もその御方針のようにしてまいりたいと思えます。」との由のお言葉を賜りました。皇后陛下は常に、陛下のお側近くにあられていつも深く御心を尽くされ、また国の母として我々国民の暮らしを案じておられるお姿は、誠に有り難い極みであります。私どもは、この大御心に少しでも報い奉ることを常に念頭に置かねばなりません。

さて、宮崎県では春に口蹄疫が確認され、猛威を振るいましたが、夏の猛暑の中やつと終息宣言が発令されました。この間二十九万頭余の家畜が殺処分され、畜産農家を中心に甚大な被害をもたらしました。心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早い社会生活の安寧を願うばかりです。一方喜ばしい知らせと申しますと、二年ぶりの偉業となります。ノーベル化学賞を、鈴木章氏・根岸英一氏のお二方が受賞なさいました。謹んでお慶び申し上げますと共に、斯界の益々のご発展をお祈りいたします。

当社では、崇敬厚き皆様からの御奉賛によりまして、大鳥居・拝殿（上記写真）・末廣稲荷神社鳥居を始め境内要所にわたり、真新しい注連縄にて新年を迎える準備が着々と整いつつあります。厚く御礼申し上げますと共に、この注連縄によりまして、尚一層のご神徳があらんことを祈念いたしたく存じます。

最後になりましたが、皆様方に御首の大神様の御神徳を漏れなく拝受され、愈々の御健勝と御多幸をお祈り申し上げます。御挨拶とさせていただきます。

宮司 三浦 篤

建御雷之男神の派遣 〔古事記より〕

天照大御神は自分との約束を守れずに死んでしまった天若日子を思い出しながらも悲しい気持ちで葦原の中つ国を眺めていました。そして思兼神に「あの国はとても平和になりましたが、またいつ悪い神が暴れるかもわかりません…。いつその事、私の子孫にあの国を守らせた方が良いと思うのですが、どうですか？」と相談しました。

思兼神は「それはいい考えですな！では早速、葦原の中つ国を守っている大国主神のもとに遣いの使者を送りましょう。



そつじや、建御雷之男神が良いじゃろう！」と答えました。それを聞いた天照大御神はすぐに建御雷之男神を呼ぶと理由を話し、天鳥船神と一緒に行くように言いました。そして天鳥船神が立派な船になり、建御雷之男神を乗せると、フワリフワリと葦原の中つ国へ降りてゆきました。

葦原の中つ国にいる大国主神は、天の国から立派な船が降りてくる事に気付くと「悪い神もこらしめたし、今は平和なこの国に天の国の神さまが何の用だろつ？もしか、この国を乗っ取りに来たのではないだろつか？嫌だなあ…。」

と不安な気持ちで船を見あげていました。

それに気づいた建御雷之男神は「あれが大国主神か。この国をすんなりと譲ってもらえるだろうか。」と思い「よし！先手必勝だ。少し驚かせてみるか。」と持っていた十掬劔を海に向かって逆さまに投げつけました。すると劔は天を向いて波の上に立ちました。建御雷之男神は、尖っている先っぽに「ヒョイツ」とあぐらをかいて座って見せたのです。

そして、「私は天照大御神さまの遣いでやってきた。天の国の神さまたちが、この国は天照大御神さまのご子孫が守るべきであるとお決めになりましたので、私はそれをそなたに伝えに参ったのだ。どうだ、この国を譲ってくれるか？」と大国主神に尋ねました。

それを聞いた大国主神はと言うと、刃の先に平気で座っている建御雷之男神を見て「強そつな神様だなあ！私にはとてもあんな真似は出来そうもない。素直にこの国を譲るしかなさそつだなあ。」と諦めかけましたが、息子達にも相談しようと思いとどまり、「あなたが来られた理由は分かりました。そのような大事なことは、私ひとりでは決められません。」

私には八重事代主神と言う息子がおります。まずは彼に聞いてください。でも彼は凄く遠くくの岬で漁をしていて、当分帰ってきません。」と言ったのでした。

すると、建御雷之男神は「ふむ、そうか。」と言うと、天鳥船神になにやら話しかけました。

さて、建御雷之男神は一体どうするのでしょうか？
つづく



おとつさん、おかあさん、おじいちゃん、おばあちゃんへ！

今回は天より遣わされる第二の使者「建御雷之男神」の神話を基にいたしました。この神さまは茨城県の鹿島神宮に祀られております。古来より伝わる神話を、お子さまやお孫さまと一緒に読んでいただき、子供たちの情操教育の一助となりましたら幸いです。

祭事報告

夏越大祓

八月九日午後三時半齋行

祭典は、晴天に恵まれ多くの崇敬者が見守る中、厳肅に執り行われました。この神事は、知らず知らずの内に受け犯した罪や穢れを被い清め、災厄から逃れ幸福を得んとするものであり、清浄を重んじる神道においては、古来から変わらぬ大切な年中行事の一つに数えられております。

大祓式が済みますと、古式に従い茅の輪を四度くぐり、拜殿前で一礼をして神事が納まります。

尚、皆様が罪や穢れを託された人形は、祭員により忌み火にてお焚き上げいたしました。



崇敬会大祭

十一月三日午後二時齋行



今年も、多くの会員のご参列を頂きました。祭典では、ご参列の会員のご芳名を「ご神前」にご報告いたし、会員の無病息災・生業繁栄・家内安全・子孫繁栄が願われしました。祭典の終りに各自金幣を奉りて拝礼頂き、大祭特別祈禱神符並びに記念品を受領されました。

諸祭典(抜粋)

- 月次祭
- 農休み祭
- 西宮神社例祭
- 末廣稻荷神社例祭
- 長寿祈願祭
- 神明神社例祭
- 七五三参り
- 新嘗祭

御首神社ホームページ 神職への質問Q&A

問 先般神社でご祈禱を受け、お下がりをご頂戴しました。口に入る物は有り難く頂きましたが、神社名が入った包み紙や熨斗はどのように処分したらよいでしょうか？

答 普通ゴミに出すのも何やら恐らくて困っております。

問 包み紙や熨斗紙などは、ご自宅で普通ゴミとして処分して戴いて構いません。もし判断に困る物がおありの場合は、お尋ね下さい。

問 神棚にお供えしてありました古く傷んだ御神酒はどのように処分したらよいでしょうか？

答 御神酒は傷む前に、お下げになり皆様で召し上がって頂くか若しくは料理にお使い下さい。傷んだ御神酒は、松の根元にお蒔きになるのも一つの方法かと思えます。

まとめ 敬神の念厚き皆様からのお尋ねと感じます。この気持ちを忘れず日々のお護りに感謝なされば、より一層の御神徳がいただけるものと思えます。

崇敬会入会のご案内

本会は、「古来首より上の諸病を憂うる者此の社に願えば靈験あらたか」と伝わりし御首神社の御神徳に感謝し、「ご家族の諸病平癒・無病息災・家内安全生業繁栄並びに子孫繁栄を願う崇敬者の会として設立されました。

入会を望まれます方は、社務所までご一報下さい。早々に案内資料をご用意させていただきます。

会員の特典(抜粋)

- ・入会報告祭の実施
- ・誕生特別祈禱の実施
- ・及び祈禱神符の授与
- ・主要祭典のご案内
- ・正式参拝

会員の種類と年会費

個人	三千元
家族	五千元
特別	一万元
法人	二万円
名誉	三万円

お問い合わせ先
神社社務所まで
0584-91-3700

大鳥居等注連縄のご奉賛のご芳名 (平成二十二年七月中旬迄)

*紙面上には、二三五名のご芳名がご紹介されていますが、個人情報
報の関係もあり、敢えてご紹介を控えさせていただきます。

.....

.....

.....

.....

御奉賛の御礼

先般夏号にて、大鳥居等の注連縄のご奉賛をご案内申し上げましたところ、多数の皆様方のご理解を得まして、赤誠溢れるご奉賛を頂戴いたし、平成二十三年の輝かしい年明けにあわせ奉納させて頂く運びとなりました。誌上より厚く御礼申し上げます。

(順不同・敬称略)

八方塞がりの皆さん

平成23年 八方塞がり早見表

方位図

昭和	14年生
	23年生
	32年生
	41年生
	50年生
平成	5年生
	14年生

高島暦参考

抜粋

ご祈禱をお受けになり
健康な毎日を
過ごしましょう

平成23年 年祝い早見表 (数え歳)

古稀	70歳	昭和 17 年生
喜寿	77歳	昭和 10 年生
傘寿	80歳	昭和 7 年生
米寿	88歳	大正 13 年生
卒寿	90歳	大正 11 年生
白寿	99歳	大正 2 年生

年祝いの皆さん

祭事案内

年越大祓

十二月三十日午後三時齋行
半年間に知らず知らず身についた罪や穢れを人形に託し、忌み火にて焚き上げます。

浄火祭 二月三日午前十時齋行

当日は、一年間に亘り御神前に奉られました金幣串や皆様方が奉納されました絵馬や帽子等又、家庭でお祀り頂きました紅白串を、厄年の男たちが忌み火にてお焚き上げし、皆様の心願成就を祈願する神事であります。

尚、この日に限り神事終了後より正午までは、古くなりました帽子をお焚き上げいたしますので、お持ち下さい。



例大祭 四月二日午後三時齋行



【特設舞台前】

年に一度の大祭で、当日は献幣使をお迎えし、古のままに厳かに祭典が執り行われます。

また、境内には多くの屋台が所狭しと建ち並び、特設舞台では、氏子区域の子供達の打ち囃しの奉納や演芸などが催されるなど終日賑わいます。

諸祭典(抜粋)

- 月次祭
- 元旦祭
- 左義長
- 祈年祭
- 御鍬神社例祭
- 南宮神社例祭
- お田植え祭

平成二十三年 初祈祷のご案内



初祈祷は、元旦祭終了後(元旦午前零時半頃)よりお仕えいたしております。

毎年、多数の皆様が我先にと御祈祷(家内安全・商売繁盛・各種受験合格・病氣平癒祈願など)をお受けになられております。新しい年の初めにご家族お揃いでお参り下さい。(御祈祷料五千元)

新年 授与品・縁起物



*その他多数の授与品・縁起物(数量限定)がございます。

平成23年 厄年表 (数え歳)

	歳	前厄	本厄	後厄
男	61歳	昭和27年生	昭和26年生	昭和25年生
	42歳	昭和46年生	昭和45年生	昭和44年生
	25歳	昭和63年生	昭和62年生	昭和61年生
女	37歳	昭和51年生	昭和50年生	昭和49年生
	33歳	昭和55年生	昭和54年生	昭和53年生
	19歳	平成6年生	平成5年生	平成4年生

編集後記
朝晩の冷え込みが厳しくなり、社務所の雨戸を開ける手が悴む今日この頃です。今号から、より多くの記事を掲載する為、紙面の構成を変更しております。

御首神社社務所

岐阜県大垣市荒尾町二八三の二
TEL(〇五八四)九一 三七〇〇
Eメール syamsyo@mikubi.or.jp